新庄村振興計画・総合戦略における各種施策の進捗状況(令和6年度末時点)

<評価基準> 5:120%以上達成 4:100%以上120%未満 3:80%以上100%未満 2:50%以上80%未満 1:50%未満

施策	内容	現状・課題・今後の展開	目標内容	集計期間	当初 (R元時点)	目標 (R6末時点)	実績 (R6末時点)	達成率	評価
標1 安定した雇用を創出し、安心して	- 安定した雇用を創出し、安心して働けるようにする		農林業新規就業者数	累計	人0	10人	13人	130.0%	5
①ヒメノモチ・農作物加工場の新設	特産品であるヒメノモチの生産量・加工量増加に向け、新たなヒメノモチ加工場やその他の農作物加工場を整備し、作物の生産だけではなく、村内で生産から加工・販売を行い、農業者等の所得向上と地域の活性化を目指す。	ヒメノモチの加工量の増加に伴う生産量の向上のため、令和5年度にライスセンターを、令和6年度にヒメノモチ第3加工場を整備したことで、農産物の村内一貫生産体制が構築することができた。 今後は、第3加工場が本格的に稼働することで、さらなる加工品販売の増加や農業者の所得向上を目指し、ヒメノモチの生産量の向上を図っていく。							
②農業生産物の高付加価値化の推進	6次産業化により、マーケットの要請や消費者ニーズを捉え、特産である源流農作物等を原料に付加価値の高い加工品の開発をさらに進めるとともに、中心となって6次産業化をけん引する人材の育成を図る。	従前から取り組んでいる6次産業化に関して、加工品の売り上げが順調に伸びてきている。一方で、6次産業化をけん引していく中心的な人材の育成が進んでいないことが長年の課題となっている。 人材育成について、今後も検討していくとともに、ヒメノモチを原料とした新たな商品開発にも積極的に取り組みたい。	農業産出額	年間	32千万円	35千万円	51千万円	145.7%	5
③力強い担い手の育成	模拡大に向けた農地の集積・集約や企業等の農業参入に向けた支援を行う。ま	農地の集積はある程度進んできているが、高齢化による離農のペースが早く、遊休農地等の増加に追いついていない現状が続いている。当該課題の解決に向け、新たな地域計画を策定するため5年後10年後の農地の利用について地域の農家、土地の所有者等で協議し将来の展望を協議した。今後は新庄村農業公社を筆頭に、後継者・担い手育成を実施し、持続可能な農業施策を図っていく。							
④林業活性化	村の基幹産業である林業の活性化及び木質エネルギーの地産地消を目的として、村内の豊富な森林資源を活用した木質バイオマスによる発電と熱を利用した温浴施設等を整備することで地域経済の活性化を図る。	林業の活性化及び木質エネルギーの地産地消を目指し、木質バイオマスによる熱利用施設の整備を進めている。素材生産量については、森林経営計画に基づく主伐・再造林が進むことに伴い素材生産量が安定的に確保できている。 今後も主伐、再造林を進め素材生産量を安定的に確保し、地域林業の活性化を図っていく。	素材生産量	年間	14千m^3	19∓m^3	14∓m^3	73.7%	2
標2 新しいひとの流れをつくる	新しいひとの流れをつくる		人口の社会増	累計	0人	15人	-50人	-333.3%	1
⑤新庄の魅力を活かした誘客の促進		『日本で最も美しい村』連合の加盟村であることを主軸に、がいせん桜通りや森林セラピー、農産物加工品などの地域資源を生かした情報発信を行っている。令和6年9月に役場商工観光係事務所をがいせん桜通りに開所して、関連団体との定期的な連絡会を開催しており、課題や情報の共有はし易くなった。今後も継続して地域の更なる魅力向上を図る。	(本) (表) (表) (表) (表) (表) (表) (表) (表) (表) (表				97千人	97.0%	
⑥がいせん桜通りの魅力向上	グランドデザインで示される整備方針や賑わい創出などに取り組むことで、通り周辺エリアの魅力度を向上させ、出雲街道新庄宿の活性化を図る。また、新たな宿泊施設や店舗などを整備することで、収益性の向上による関連施設の経営安定化を図るとともに、アルベルゴ・ディフーゾ(分散型ホテル)として魅力を高め、地域経済を活性化し村内への経済循環を図る。	住民協力のもと、がいせん桜の保全活動と景観保全には継続して取り組んでいる。役場商工観光係をがいせん桜通りに開所することで、通りの状況把握はし易くなっているが、地域経済活性化のためのしかけ作りが今後の課題である。		年間	93千人	、 100千人			3
⑦真庭観光局との連携	交流人口の増加を目指す上で、真庭地域との連携は欠かせないものとなっている。現在、真庭観光局と連携し、誘客を促進しているが、引き続き協力関係を維持・発展させ、効果的なプロモーションを行うことで真庭地域全体の活性化を図る。	している。真庭観光局の「地域プロジェクトマネージャー事業」のひとつであり、令和5年から新庄村でも開催している『真庭deのみ~の』が定着しつつあ							
⑧新しい働き方の検討	味と技術で複数の仕事を掛け持つ「ポートフォリオワーカー」をターゲットに	移住・定住支援及び伴走型起業支援プログラムを実施したが、全体的に活動が思うように進まず、成果が限定的な状況であった。目標値は達成できているが、施策目的の対象となる業種等への働きかけが不十分であるため、今後も都市部のミドル人材へのアプローチ等を継続していきたい。	-村内で起業した人数 累計	累計	0人	5人	. 8人	160.0%	6 5
⑨空き家を活用した起業の促進	若い世代を中心とした村内での起業を促進するため、空き家を店舗へと改修してリーズナブルな価格設定で貸し出すことで、導入にかかるイニシャルコストを低減し、安心して起業や出店ができる環境を整備する。	進展してないのが現状である。今後は、起業を目指す方々及び起業後の方々の		200	57(

新庄村振興計画・総合戦略における各種施策の進捗状況(令和6年度末時点)

<評価基準> 5:120%以上達成 4:100%以上120%未満 3:80%以上100%未満 2:50%以上80%未満 1:50%未満

施策	内容	現状・課題・今後の展開	目標内容	集計期間	当初 (R元時点)	目標 (R6末時点)	実績 (R6末時点)	達成率	評価
3 若い世代の結婚・出産・子育ての	希望をかなえる		今後もこの地域で子育てをし ていきたいと思う割合	年間	54.5%	60.0%	44.4%	74.0%	2
⑩テレワーク事業の推進	企業のバックオフィスなどの一部移転を働きかけ、既に村内で登録している テレワーカーの雇用と結びつけることで村内経済への波及と子育て中のお母さ んでも働きやすい環境の整備を目指す。		企業の一部移転数	累計	0社	1社	2社	200.0%	5
①移住促進住宅の整備	の整備を促進する。	定住促進住宅の整備を進めているが、いまだ移住者に対する住宅が不足している状況が続いている。村が整備した公営住宅の運営には、長期的に維持管理費が必要となるため、民間事業者が整備した住宅の借り上げ等も選択肢に含めながら、移住施策とも連携した今後の整備方針を検討していきたい。	整備した住宅の数	累計	0戸	5戸	8戸	160.0%	5
⑫小中一貫教育の充実	や、「地域の学校」として空き教室の有効利用、保育所を含めた給食を提供する学校給食センターの施設整備を進めることで、質の高い教育の提供や効率的		-	_	-	-	-	-	-
4 時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する		暮らしやすい村と思う割合	年間	37.0%	40.0%	46.0%	115.0%	4	
⑬健康寿命の延伸と介護予防の充実		①特定健診・特定保健指導の受診率向上についての取り組みは、がん検診との同日実施や、地域の愛育委員と協働しての声かけ訪問による受診勧奨等を継続して行っている。また、住民の健康づくりについては運動教室や高齢者サロンに保健師や栄養士が関り、健康相談や知識の普及等を行っている。 ②健診も運動教室・サロン等も、住民の固定化が課題となっている。 ③今までの方法を継続すると共に、国保新規加入のタイミング等機会をとらえた周知・啓発を行っていく。	特定健診受診率(国保)	年間	62.5%	67.0%	53.1%	79.3%	2
⑭高齢者住宅の整備	担を軽減するため、高齢者住宅の整備を検討する。	令和5年度に実施した新庄村介護保険計画策定委員会及び福祉施設整備検討委員会で高齢者住宅整備について検討した結果、今後は高齢者住宅と老朽化した公民館機能を集約した複合施設整備について検討を行うこととなった。地域のニーズに合わせ、福祉避難所等の必要な機能を集約した施設整備について検討を進めたい。現在検討会を開催しており、今年度中には方向性を決めて行く予定で、今後施設の視察を行っていく予定。	高齢者住宅の戸数	累計	0戸	4戸	0戸	0.0%	1
⑤憩いの場の整備	気軽に訪れることができる図書室などを整備しする。また、学校図書館や公民 館図書室ともネットワーク化することにより、村民が自由に村内の図書を利用 できるようにする。	図書室などの憩いの場については、令和7年4月から運用する教育振興基本計画・後期計画の策定委員会で議論を行い、整備に向けた施策の方向性を示した。学校と公民館の図書ネットワーク化は実施済みであり、相互の蔵書の閲覧や貸出しが可能となっている。また、上述の福祉避難所等機能を集約した複合施設との併設とも並行して検討を行い、費用対効果を見極めながら、今後の在り方について検討していきたい。	整備した憩いの場の数	累計	0箇所	1箇所	0箇所	0.0%	1
⑥地域内交通網の充実	る「しんじょうくん」といった既存の公共交通サービスを活かしながら、地域 住民による送迎サービスの導入など、その他の移動手段について検討する。	「しんじょうくん」以外にも社会福祉協議会が福祉医療バスも村内で運行させているため、村内での移動手段は概ね確保出来ていると考える。一方で、村外への移動手段が「まにわくん」に限定されるため、高齢者の通院・買い物等の移動手段確保が課題となっている。今後他の関係機関と連携しながら解決に向けた施策の検討を行う。		累計	0	1	0	0.0%	1